

# 船舶事故調査報告書

平成25年11月21日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）  
委員 庄 司 邦 昭  
委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成25年7月29日 20時30分ごろ
発生場所	佐賀県唐津市小川島北西岸 唐津市所在の小川島港西防波堤灯台から真方位340° 1,100m付近 (概位 北緯33° 36.2′ 東経129° 53.7′)
事故調査の経過	平成25年9月2日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 正宝丸、4.6トン SA3-23892（漁船登録番号）、個人所有 10.60m (Lr) × 2.80m × 0.89m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数70、平成2年4月22日
乗組員等に関する情報	船長 男性 63歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年5月28日 免許証交付日 平成24年7月19日 (平成30年4月14日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	プロペラ翼、プロペラ軸及び舵軸に曲損、船底外板に擦過傷
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成25年7月29日19時55分ごろ唐津市加唐島北東部の大泊漁港を出港し、同島南部の加唐島漁港に向かった。 船長は、出港時から眠気を感じていたが、加唐島漁港まで約20分の航程なので、居眠りすることはないものと思ひ、操舵室の右舷側で背もたれ付きの椅子に腰を掛けて手動操舵を行い、約3.5ノットの対地速力で加唐島東方沖を東南東進した。 船長は、加唐島東方沖の定置網の北東方～東方に集魚灯を点灯した約6隻のいか釣り漁船を視認し、右舷船首方にいる約3隻の漁船の間隔が狭く見えたことから、最も東側の漁船の東方を大回りして南下しようと思ひ、加唐島東方沖を東南東進中、いつの間にか居眠りに陥った。

	<p>本船は、最も東側の漁船の北方を通過して小川島北西岸に向けて航行し、20時30分ごろ同島北西岸の岩場に乗り揚げた。</p> <p>船長は、衝撃で目が覚め、周囲の地形を見て小川島北西岸に乗り揚げたことを知り、携帯電話で知人に救助の要請を行った。</p> <p>本船は、知人の船に引き下ろされ、唐津市呼子港までえい航された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の初期</p>
その他の事項	<p>船長は、本事故の4～5日前から、18時半ごろ出港して翌日の03時半ごろまで、加唐島東方沖でのいか釣り漁を連日行っており、水揚げして06時ごろ帰宅し、朝食をとった後、07時ごろから睡眠をとっていたが、暑い日が続いていたことから、4～5日間は午前中に約3時間の睡眠しかとれず、睡眠不足となり、疲労が蓄積していた。</p> <p>船長は、本事故当日も06時ごろ帰宅し、約3時間の睡眠をとり、12時ごろから13時半ごろまで、家族や親族と昼食をとりながら、日本酒を約3合飲み、その後、17時ごろから19時ごろまで、仮眠をとった。</p> <p>船長は、疲れが残っていたことから、本事故当日の漁を休むことにしていたが、燃料がほとんど残っていなかったため、燃料と氷を積み込むために出港した。</p> <p>船長は、出港時、酔いは残っていないと思っていたが、起きてから時間が余り経っていなかったことから、まだ眠気が残っていると感じていた。</p> <p>船長は、ふだん、航行中に眠気を感じたときには、椅子の上に立って操舵室上部の天窓から顔を出し、風に当たって眠気を覚ますようにしていた。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.6m、船尾約1.2mであった。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、加唐島東方沖を手動操舵で東南東進中、操船中の船長が居眠りに陥ったことから、小川島北西岸に向けて航行し、同島北西岸の岩場に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、睡眠不足となり、疲労が蓄積していたこと、昼食時に飲酒をしたこと、出港時に眠気を感じていたこと、及び椅子に腰を掛けて操船を続けていたことから、居眠りに陥ったものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、夜間、本船が、加唐島東方沖を手動操舵で東南東進中、操船中の船長が居眠りに陥ったため、小川島北西岸に向けて航行し、同島北西岸の岩場に乗り揚げたことにより発生したものと考えられ</p>

	る。
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 十分な休憩をとって航行に備えること。</li><li>・ 操船する予定がある場合は、アルコール類の摂取を控えること。</li><li>・ 眠気を感じた状態での出港は控えること。</li><li>・ 単独で操船する場合、時々、椅子から離れて外気に当たったり、ガムをかむなどしたりして居眠りに陥らないようにすること。</li></ul>